

**大学等環境安全協議会**

**実務者連絡会会報**

**第 16 号**

**平成 2 6 年 3 月**

## 目 次

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| 実務者連絡会から.....                            | 1  |
| 第 15 回実務者連絡会総会報告.....                    | 3  |
| 第 15 回実務者連絡会総会資料.....                    | 3  |
| 1. 平成 24 年度実務者連絡会事業報告.....               | 3  |
| 2. 平成 24 年度実務者連絡会決算報告.....               | 5  |
| 3. 平成 25 年度実務者連絡会事業計画.....               | 5  |
| 4. 平成 25 年度実務者連絡会予算案.....                | 5  |
| 5. 実務者連絡会の現状.....                        | 5  |
| 6. 各部門よりの報告.....                         | 6  |
| 7. 実務者連絡会会報誌公開のご案内.....                  | 6  |
| 8. 名簿の配布方法について（案）.....                   | 6  |
| 9. 会報誌の公開拡大について（案）.....                  | 6  |
| 10. その他.....                             | 7  |
| 平成 25 年度 事業紹介（諸事）.....                   | 10 |
| 第 29 回技術分科会実務者連絡会企画 報告.....              | 12 |
| 第 6 回実務者連絡会技術研修会 報告.....                 | 13 |
| 【寄稿 報告書】                                 |    |
| イタイイタイ病資料館見学記 鹿児島大学 河野百合子.....           | 14 |
| 局所排気装置の適切なメンテナンス 茨城大学 金澤 浩明.....         | 15 |
| 大学等環境安全協議会プロジェクト会議参加報告 横浜国立大学 鈴木 雄二..... | 18 |
| 【プロジェクト中間報告書】                            |    |
| 大学等における巡視の方法とシステムについて 東北大学 澤口亜由美.....    | 20 |
| 実務者連絡会における情報の整理と活用促進 山口大学 山野 聖子.....     | 21 |
| 技術賞候補者推薦のお願い.....                        | 22 |
| 第 16 回実務者連絡会の予定（案）について.....              | 23 |
| 実務者連絡会ホームページ、SNS サービスについて.....           | 24 |

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 実務者連絡会名簿登録、追加について ..... | 24 |
| 実務者連絡会申し合わせ .....       | 25 |
| 実務者連絡会役員 .....          | 26 |

## 実務者連絡会から

平成 24 年度実務者連絡会世話人

荻野 和夫、榊原 洋子、平 雅文、大泉 学、田平 泰広

本年度は、夏に総会・研修会、秋に技術分科会が開催されました。

総会を前に、役員で協議した結果、予算の有効的な執行を目的として、実務者連絡会内のプロジェクトを公募し、活動を行ってもらい運びとなりました。声掛けが年度当初ではなかったことを考慮し、年度内終結を目指すものではなくても良い方針で公募を行いました。主な内容を時系で表記いたします。

実務者連絡会では、役員が入れ替わる年であり、7 月の鹿児島での大学等環境安全協議会においては、役員改選及び先に述べたプロジェクトの内容公示だけになってしまい、実りある研修会ができなかったことを深くお詫び申し上げます。

役員は、代表世話人が田平泰広氏（長崎大学）から荻野和夫氏（群馬高専）に交代し、榊原洋子氏（愛知教育大学）が新世話人（大環協理事）に就任いたしました。

また、各部門を新しく見直し、労働安全衛生部門は安全衛生部門として、廃棄物処理部門は廃棄物部門として、新たな部門長や副部門長の元活動を開始いたしました。

新役員は、安全衛生部門は部門長に中山政勝氏（静岡大学）副部門長に金澤氏（茨城大学）を招きました。二人ともとても若く活発なので、これからの活動が楽しみになっております。廃棄物部門ですが、部門長に進藤拓氏（東北大学）をお願いをして、活動を開始いたしましたが、本人の体調の関係で免任致しまして、副部門長に就任頂きました片岡裕一氏（福井工業高専）に部門長不在の中活動をしていただきました。平成 26 年度は新部門長を招き活動を計画しております。（役員詳細は次表）

7 月の総会終了後、プロジェクトの募集を行いました。プロジェクトには本年度 2 件の応募があり、役員で協議した結果採択といたしました。ただ、スタート時期が遅くなったことより、本年度に成果を出すことは求めず、成果発表は来年度以降といたしましたことをご承認いただき、今回の会報には中間報告を掲載する運びとなりました。2 件とも実務者連絡会においてはかなり重要な案件と考えられますので、次年度以降の継続も視野に入れ活動をお願いしている次第であります。良い成果が得られますよう会員皆様のご協力をお願いいたします。

秋の分科会は、金沢大学で開催されました。

待ちに待った金沢での開催で、かねてから細密にわたりご準備頂いた吉崎佐知子氏（金沢大学）の甚大なるご協力を得て、能登半島環境見学ツアーも盛大に開催されま

した。能登の自然を利用した金沢大学の取り組み、株式会社スギヨ様の地産地消、能登半島の自然を生かし、環境に配慮した農・水産物生産への取り組みには感服を覚えた次第です。

分科会においては、独法化10年「いまだからもう一度「安全」について考える」をテーマに、中山政勝安全衛生部門長の司会の下、シンポジウムを開催させていただきました。（本詳細は「環境と安全」に投稿予定）

「危険物取り扱い事例」を紹介していただきました長谷川紀子氏（東京工業大学）、をはじめ、「高圧ガスの安全管理」三上恭訓氏（東北大学）、「硫化水素発生事故後の大学の対応」小澤崇良氏（東北大学）、「富山高専 技術職員による環境安全教育のとりくみ」戸出久栄氏（富山高専）の各位にはこの場を借りて御礼を申し上げます。

25 年度から、新役員で活動をしてまいりましたが、不慣れな点が多く、各部門長・連絡会世話人をはじめ会員皆様には、多大なるご迷惑をおかけいたしました。同じ役員でもう一年協力し、活動を行っていきます。実務者の技術の向上、大学・地域・社会への貢献につながりますよう皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

#### 平成 25 年度実務者連絡会役員

| 役職名        |      | 氏名    | 大学等名             |
|------------|------|-------|------------------|
| 世話人(大環協理事) |      | 荻野 和夫 | 群馬工業高等専門学校       |
| 世話人(大環協理事) |      | 榊原 洋子 | 愛知教育大学           |
| 世話人(大環協監事) |      | 平 雅文  | 高エネルギー加速器研究機構    |
| 世話人        |      | 大泉 学  | 新潟大学             |
| 世話人        |      | 田平 泰広 | 長崎大学             |
| 監 事        |      | 前田 芳己 | 琉球大学             |
| 廃棄物部門      | 部門長  | 進藤 拓  | 東北大学 11 月末免任以後不在 |
|            | 副部門長 | 片岡 裕一 | 福井工業高等専門学校       |
| 安全衛生部門     | 部門長  | 中山 政勝 | 静岡大学             |
|            | 副部門長 | 金澤 浩明 | 茨城大学             |

尚、廃棄物部門長は H26 年 4 月に新規任命予定

## 第 15 回実務者連絡会総会報告

第 15 回実務者連絡会総会を下記議題で開催しました。議題についての質疑は特に無く、議案は了承されました。

日時：平成 25 年 7 月 18 日（木） 14 時 00 分～14 時 45 分

場所：鹿児島大学稲盛会館

議題：

- 1：平成 24 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業報告
- 2：平成 24 年度決算報告
- 3：平成 25 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業計画
- 4：平成 25 年度予算案
- 5：実務者連絡会の現状
- 6：各部門よりの報告
- 7：実務者連絡会会報誌公開の案内
- 8：その他

### 【報告】

## 平成 25 年度実務者連絡会総会資料

### 1. 平成 24 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業報告

- ・平成 24 年 7 月 研究集会及び見学会の開催

研究集会

「化学物質管理システム運用について」

日時：平成 24 年 7 月 26（水）9 時～

場所：九州大学医学部百年講堂 1F 中ホール

パネラー：川上（北海道大学）、中山（静岡大学）、逸見（株 PFU）、

角井（大阪大学）、塙（茨城大学）、林（東京大学）、

吉崎（金沢大学）、藤井（新潟大学）

概要：大学等においても、化学物質管理の適正化を目的として化学物質管理システムが導入されてきました。しかしながら、「システム」や「データベース」といった単語は複数の意味に解釈されるものであることから、運用方法や体制、Web プログラムの機能・性能、そして化学物質情報マスターデータベース（以下、試薬マスタ）、といった各個の問題が切り分けされないまま表面的な議論に終始することが多く、各大学等で実効性のある情報交換が成立し難い状況にありました。そこで、今回は特に試薬マスタの維持管理に焦点を当てて議論を行い、問題点やノウハウの整理と共有化を試みます。もって各大学等における化学物質管理の向上に寄与することを目

的とした。

見学会

日時：平成 24 年 7 月 25 日（水）14 時～

場所：光和精鉱株式会社 戸畑製作所 産業廃棄物処理施設

参加人数：25 名

・平成 24 年 7 月 第 14 回実務者連絡会総会を開催

第 30 回大学等環境安全協議会総会及び研修会 1 日目に第 14 回実務者連絡会総会実施  
議題

平成 23 年度事業報告及び決算報告

平成 24 年度事業計画及び予算案

その他

・平成 24 年 10 月 第 28 回大学等環境安全協議会技術分科会（秋田）

実務者連絡会特別企画

「有機溶剤の安全な取り扱いについて」

座長 東北大学 中村 修

① 印刷業の事例から得られる教訓 東北大学 中村 修

② 法律の規則の矛盾とその対応について 北海道大学 川上貴教

③ 化学物質のリスクアセスメントの方法と衛生管理 名古屋工業大学 松原孝至

④ 作業環境測定と改善事例の紹介 熊本大学 青木隆昌

⑤ 学生への安全教育 東北大学 澤口亜由美

⑥ 産業医との連携 愛知教育大学 榊原洋子

・平成 24 年 10 月 実務者連絡会企画見学会を開催（秋田）

第 28 回大学等環境安全協議会技術分科会に合わせ、見学会を開催（秋田大学と共催）

見学地：あきたエコタウンセンター

日時：平成 24 年 10 月 24 日（水）

場所：秋田県小坂市小坂鉱山字古館 9-3

参加人数：30 名

概要：あきたエコタウン及びその周辺に位置するエコタウン関連施設の見学

小坂製錬、グリーンフィル小坂、オートリサイクル秋田

その他：宿泊を伴った。

・平成 25 年 3 月 第 5 回実務者連絡会研修会開催

## プログラム

「巨大地震に備える大学の安全管理」

開催日：平成 25 年 3 月 8 日（金） 13 時～17 時

主催：大学等環境安全協議会実務者連絡会

共催：豊橋技術科学大学

会場：豊橋科学技術大学国際交流センター105 号室

対象：大学等環境安全協議会会員

参加人数：43 名

- ・平成 25 年 3 月 実務者連絡会会報第 15 号の発行

全 42 ページの会報を作成、メール配信及び web 公開を行った

## 2. 平成 24 年度決算報告が行われた（P.6 参照）

## 3. 平成 25 年度連絡会事業計画

- ・平成 25 年 4 月 役員改選
- ・平成 25 年 7 月 総会 鹿児島大学  
同 役員打ち合わせ会
- ・平成 25 年 9 月 プロジェクト公募
- ・平成 25 年 10 月 プロジェクトと決定
- ・平成 25 年 11 月 技術分科会  
同 見学研修会
- ・平成 26 年 3 月 実務者連絡会研修会 茨城大
- ・実務者連絡会報第 16 号発行

## 4. 平成 25 年度予算が承認された（P.7 参照）

## 5. 実務者連絡会の現状（H24 年度末）

会員数：101 人 （大学等研究機関：93 人、企業：8 人）

廃棄物管理部門：20 人、労働安全衛生部門：28 人、両部門：27 人

未登録者：26 人

メーリングリスト参加人数：103 人（アドレス未登録者：2 人）

S N S サービス参加者：38 人



会員数：99 人（大学等研究機関：91 人、企業：8 人）

廃棄物管理部門：21 人、労働安全衛生部門：31 人、両部門：28 人

未登録者：26 人

メーリングリスト参加人数：103 人（アドレス未登録者：2 人）

SNS サービス参加者：39 人

（平成 24 年度 7 月 5 日現在）

#### ・ SNS サービスについて

実務者連絡会メンバーの情報交換及び相互理解を深めるため、SNS サービスの運用を開始しました。このサービスは mixi と同様のもので、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービスです。会員間の相互理解を深め、テーマを絞った掲示板を作成し、情報交換を行うことが出来ます。

この SNS へ参加するには、管理者から招待状を受け取らなければなりません。参加ご希望の方は、世話人までご連絡ください。なお、参加に当たってはいくつか条件があります。

1. 実名で登録する。（ハンドル名不可）
2. 参加者は実務者連絡会メンバーに限る。
3. 参加は無料。
4. SNS 内で知り得た情報を、情報提供者の了承無く外部に漏らさない。

## 6. 各部門の活躍

廃棄物処理部門、労働安全衛生部門よりそれぞれ部門長の挨拶があった。

## 7. 実務者連絡会会報誌公開のご案内

実務者連絡会ホームページ (<http://www.daikankyo-eng.org/public/>) にて、会報誌 1 号から掲載されています。

## 8. 名簿の配布法について（案）

- ・ PDF ファイル（編集、コピー、印刷不可、再配付禁止）とする。
- ・ 会報誌と同様に公開し、HP 上でダウンロード可能とするが開封にはパスワードが必要。（HP へのアクセスにはログイン名とパスワードが必要）
- ・ パスワードは、ML リストで配布する。（パスワードは少し複雑にする。）

## **9. 会報誌の公開拡大について（案）**

現状、H P 上で公開し、実務者連絡会会員のみに閲覧を許可。

- ・ 閲覧許可（ログイン名とパスワード）を大環協へ広げる。
- ・ 制限をなくし、公開する。

## **10. その他**

特になし

以上 総会報告

<付記> 2. 平成24年度決算報告

平成24年度大学等環境安全協議会実務者連絡会決算報告書

平成25年3月31日

| 事 項                  | 予算額<br>(円) | 決算額<br>(円) | 備 考                     |
|----------------------|------------|------------|-------------------------|
| (収入)                 |            |            |                         |
| 前年度繰り越し              | 380,684    | 380,684    | (内)現金250円               |
| 実務者連絡会活動費            | 300,000    | 300,000    | 大学等環境安全協議会より            |
| 預金利息                 | 100        | 105        |                         |
| 収入計                  | 680,784    | 680,789    |                         |
| (支出)                 |            |            |                         |
| 謝金                   | 90,000     | 24,000     | 研修会講師謝金(2名分)            |
| 見学会補助(分科会-秋田)        | 70,000     | 115,550    | 貸切バス代                   |
| 研修会補助<br>(3月-豊橋技術大学) | 70,000     | 2,100      | 見学先土産料                  |
| 部門活動費                | 100,000    | 100,000    | 50,000円×2部門             |
| 銀行手数料                | 2,000      | 420        | 振込み手数料(秋田銀行)            |
| 消耗品                  | 0          | 400        | 会報誌型本テープ代               |
| レンタルサーバー代            | 10,000     | 0          | 部門経費より支出                |
| 郵送料                  | 300        | 0          |                         |
| 予備費                  | 338,484    | 438,319    | 平成25年度へ繰越<br>(内)現金 850円 |
| 支出計                  | 680,784    | 680,789    |                         |

平成25年4月3日

上記のとおり相違ありません。

監査 本田由治 

＜付記＞ 4. 平成 25 年度予算案

平成 25 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会予算(案)

| 事項        | 予算額     | 内訳               | 備考                        |
|-----------|---------|------------------|---------------------------|
| (収入)      | 円       |                  |                           |
| 前年度繰り越し   | 438,319 |                  | (内)現金 850 円               |
| 実務者連絡会活動費 | 300,000 |                  | 大学等環境安全協議会より              |
| 預金利息      | 100     |                  |                           |
| 収入計       | 738,419 |                  |                           |
| (支出)      | 円       |                  |                           |
| 謝金        | 90,000  | 30,000<br>60,000 | 技術分科会<br>研修会              |
| 見学会・研修会補助 | 150,000 | 80,000<br>70,000 | 見学会移動費補助等<br>研修会移動費補助等    |
| レンタルサーバー代 | 10,000  | 10,000           |                           |
| 部門活動費     | 100,000 | 50,000<br>50,000 | 廃棄物処理部門活動費<br>労働安全衛生部門活動費 |
| プロジェクト経費  | 120,000 |                  | 2 件を募集(1 件 6 万円)          |
| 銀行手数料     | 2,000   |                  | 振込み手数料他                   |
| 郵送料       | 300     |                  |                           |
| 予備費       | 266,119 |                  |                           |
| 支出計       | 738,419 |                  |                           |

## 平成 25 年度 実施事業紹介

### ・平成 25 年 7 月 鹿児島大学

役員打ち合わせ

新役員紹介

新事業紹介（プロジェクトの公募について）

部門名称変更

廃棄物処理部門→廃棄物部門

労働安全衛生部門→安全衛生部門

各部門の予定

その他

### ・平成 25 年 11 月 富山県イタイイタイ病資料館見学会開催

日時：平成 25 年 11 月 13 日（水）

場所：富山県イタイイタイ病資料館（富山市友杉 151 番地（とやま健康パーク内））

内容：資料館の展示解説（30 分）

ガイドンス映像視聴（15 分）

語り部講話（30 分）

### ・平成 25 年 11 月技術分科会実務者連絡会企画プログラムの実施

大学等環境安全協議会実務者連絡会プログラム

シンポジウム「今だからもう一度「安全」について考える」

日時：平成 25 年 11 月 14 日（木）14 時 30 分～17 時 30 分

場所：金沢市此花町 6-10 金沢都ホテル

#### 1. 発表題目

- |                            |          |             |
|----------------------------|----------|-------------|
| 1. 危険物取扱い事例                | 東京工業大学   | 長谷川紀子（40 分） |
| 2. 高圧ガスの安全管理               | 東北大学     | 三上 恭訓（20 分） |
| 3. 硫化水素発生事故後の大学の対応         | 島根大学     | 小澤 崇良（20 分） |
| 4. 富山高専 技術職員による環境安全教育の取り組み | 富山高等専門学校 | 戸出 久栄（20 分） |

### ・平成 25 年 11 月 能登見学会 見学会開催

見学記は「環境と安全」に掲載予定

### ・平成 26 年 3 月 第 6 回実務者連絡会技術研修会の実施

日時：平成 26 年 3 月 6 日（木）～7 日（金）

場所：茨城大学水戸キャンパス（茨城県水戸市文京 2-1-1）

内容：局所排気装置の適切なメンテナンスについて

- ・平成 26 年 3 月 実務者連絡会会報第 16 号の発行（Web 版）

<http://www.daikankyo-eng.org/public/bulletin/bulletin.html>

（閲覧には、ユーザー名とパスワードが必要です。）

- ・実務者連絡会プロジェクトについて

9 月に公募を行ったところ、下記 2 件の申請があった。

10 月に採択を決定し、プロジェクト活動の開始をお願いした。

本年度は、年度途中からの運用のため、プロジェクト報告は平成 26 年度以降とした。

本号には、中間報告をお願いした。

申請のあったプロジェクト

- 1 号 大学等における巡視の方法とシステムについての調査

代表 澤口 亜由美（東北大学）

- 2 号 実務者連絡会における情報の整理と活用促進

代表 山野 聖子（山口大学）

- ・各部門よりの報告

－廃棄物部門－（世話人 荻野和夫）

- ・部門長の免任の報告

進藤 拓氏（東北大学）は、体調を考慮して廃棄物部門、部門長を免任致します  
（平成 25 年 11 月）

活動・・・

アンケートの実施「廃棄物処理の現状」

平成 25 年 12 月に実務者メーリングリストを利用しアンケートを行った。

アンケート回収は 31 件（平成 26 年 3 月末）。

アンケート結果を考察し、秋の技術分科会での企画に用いる予定です。

－安全衛生部門－

- ・平成 25 年 11 月 富山県イタイイタイ病資料館見学会開催

日時：平成 25 年 11 月 13 日（水）

場所：富山県イタイイタイ病資料館（富山市友杉 151 番地（とやま健康パーク内））

内容：資料館の展示解説（30 分）、ガイダンス映像視聴（15 分）、語り部講話（30 分）

・平成 25 年 11 月技術分科会実務者連絡会企画プログラムの実施

日時：平成 25 年 11 月 14 日（木）14 時 30 分～17 時 30 分

場所：金沢市此花町 6-10 金沢都ホテル

内容：シンポジウム「今だからもう一度「安全」について考える」

1. 危険物取扱い事例（東京工業大学 長谷川紀子）
2. 高圧ガスの安全管理（東北大学 三上恭訓）
3. 硫化水素発生事故後の大学の対応（島根大学 小澤崇良）
4. 富山高専 技術職員による環境安全教育の取り組み  
（富山高等専門学校 戸出久栄）

・平成 25 年 11 月 能登見学会 見学会開催

・平成 26 年 3 月 第 6 回実務者連絡会技術研修会の実施

日時：平成 26 年 3 月 6 日（木）～7 日（金）

場所：茨城大学水戸キャンパス（茨城県水戸市文京 2-1-1）

内容：局所排気装置の適切なメンテナンスについて

詳細は後記参照。

## 第 29 回大学等環境安全協議会技術分科会実務者企画テーマ

### シンポジウム「今だからもう一度「安全」について考える」

総合司会 荻野 和夫  
司会 中山 政勝

日時：平成 25 年 11 月 14 日（木）14 時 30 分～17 時 30 分

場所：金沢市此花町 6-10 金沢都ホテル

#### 2. はじめに

今夏、京都府福知山市の河川敷で起きた花火大会での露天爆発事故は身近にあるガソリンの取り扱いの不注意により重大な事故となり、多くの人々の関心事としてマスコミにも大きく取り上げられた。身近にあるものが安全ではなく、取り扱いに細心の注意を払い利用することにより安全が確保されることを再度考えさせられた事故である。

特に大学等では、化学物質や高圧ガスなどの危険性の高いものについては普段の教育や指導により、教職員・学生等は十分理解しているものと思われているが、残念ながら些細なミスやトラブルにより事故は発生している。今回は、実際に発生した事故から学ぶべく、危険物の取り扱いや高圧ガスの安全管理、有害ガス発生事故の対応、学生への安全教育の取り組みをについて紹介する。

#### 3. 発表題目

- |                            |          |             |
|----------------------------|----------|-------------|
| 1. 危険物取扱い事例                | 東京工業大学   | 長谷川紀子（40 分） |
| 2. 高圧ガスの安全管理               | 東北大学     | 三上 恭訓（20 分） |
| 3. 硫化水素発生事故後の大学の対応         | 島根大学     | 小澤 崇良（20 分） |
| 4. 富山高専 技術職員による環境安全教育の取り組み | 富山高等専門学校 | 戸出 久栄（20 分） |

（全体討議）

尚、発表の要旨・詳細は「環境と安全」に掲載予定



## 第 6 回実務者連絡会技術研修会報告

期日：平成 26 年 3 月 6 日 7 日

場所：茨城大学

### プログラム

開催の挨拶（14：00～14：10）

茨城大学副学長 神永 文人

#### I. 茨城大学での安全衛生の取り組みと施設見学

平成 26 年 3 月 6 日（木）（14:10～16:00）

1. 基調講演「茨城大学での安全衛生の取り組み」 茨城大学 梅田宏治
2. 特別講演「大学の安全衛生と局所排気装置」 筑波大学 野本信也
3. 特別講演「大学における局所排気装置の管理とメンテナンス」  
静岡大学 藤村 久
4. 施設見学（16:00～17:00）
  - ・ 作業環境測定施設（機器分析センター）
  - ・ 安全対策実施個所（教育学部 C201 マニファクチャリング室）

#### II. 局所排気装置メンテナンス実習 平成 26 年 3 月 7 日（金）

1. 実習内容説明（9:00～9:30）（理学部 G 棟、茨城大学 金澤、塙）
2. 湿式スクラバーのメンテナンス実習（9:30～12:00）  
休 憩 （12:00～13:30）
3. 実習内容説明（13:30～14:00）（理学部 G 棟、茨城大学 金澤、塙）
4. 乾式スクラバーのメンテナンス実習（14:00～16:00）

## 【寄稿 各報告書】

### イタイイタイ病資料館見学記

鹿児島大学廃液処理センター

河野百合子

資料館はイタイイタイ病が発生した神通川流域内にあり、平成 24 年 4 月 29 日の昭和の日にオープンした新しい施設である。館内にはイタイイタイ病発生前からの当時の人々の暮らしやイタイイタイ病発生と被害の様子、原因究明と裁判の歴史、環境修復と公害防止の取組等が解説されたパネルなどが展示されていた。当日は各展示について資料館職員による解説が行なわれ、参加者からは随時質問等がなされた。その後、2 階の交流学習ルームにてガイダンス映像の視聴と語り部講話が行なわれた。今回の語り部は祖母がイタイイタイ病患者であった柞山八郎氏。祖母の様態や看病する母親の様子など、実体験に基づいた貴重な話を聞くことができた。イタイイタイ病は現在でも 3 名の患者が生存しており、カドミウムに汚染された土壌の修復工事は昨年（平成 24 年）完了したばかりである。公害による健康被害の悲惨さと、環境修復のために費やされる労力・時間が甚大であることを改めて認識する機会となった。



## 第6回大環協実務者連絡会技術研修会 実施報告

### 「局所排気装置の適切なメンテナンスについて」

実務者連絡会安全衛生副部門長 金澤 浩明

(茨城大学 工学部技術部 安全管理部門員)

平成26年3月6日(木)、7日(金)に茨城大学茨苑会館2F研修室、理学部G棟を会場に技術研修会「局所排気装置の適切なメンテナンスについて」を開催した。参加者は内外含め総勢53名にのぼり盛況に実施することができた。準備と実施においては共催の茨城大学教職員、特に労務課、機器分析センター、工学部技術部の方々、特に小松、山口、宮本、塩澤氏、教育学部の小祝氏に多大なるご協力を頂き、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

研修会の冒頭では茨城大学の神永副学長より、茨城大学が自信を持って提供できるコンテンツの一つに局所排気装置等の定期自主検査ならびにメンテナンス技術があるので、参加者の方々の今後の業務の一助して頂きたいとの今研修会に熱い要望のコメントを頂いた。続いて基調講演として茨城大学労務課安全衛生係の梅田宏治係員により「茨城大学での安全衛生の取り組み」の講演を頂いた。この講演では茨城大学が実施している様々な安全衛生の取り組みの中で局所排気装置等定期自主検査ならびにメンテナンス、ならびに作業環境測定について実際のライン業務の説明と実施報告例、今後の課題について報告があった。

次に特別講演として筑波大学数理物質系・化学域の野本信也教授により「大学の安全衛生と局所排気装置」の講演を頂いた。



写真-1 神永副学長挨拶



写真-2 特別講演者の野本信也教授



写真-3 特別講演者の藤村 久氏

野本先生は筑波大学において多くの安全衛生教育に力を注がれており本講演においても日本の大学における環境安全衛生管理体制について、筑波大学で実施されている自主検査者養成プログラムについて多くの参加者を集めるために努力されている点、そして筑波大学において作業環境改善の為に簡易局所排気装置を用いている多くの改善事例を示していただき、参加者が具体的な対策方法について学ぶことができた。

次に特別講演として 2013 年度大環協技術賞受賞である静岡大学安全衛生センター・浜松安全衛生管理室の藤村 久氏により「大学における局所排気装置の管理とメンテナンス」と題して講演を頂いた。その中で、法人化移行時に多く大学で局所排気装置を設置したが管理とメンテナンスについて各大学での対応がバラバラであり、様々な問題点が浮上してきたことから大学独自でのマニュアルの必要性が論じられ、現在有志によるマニュアル作成を実施しており 7 月発刊予定で現在進行していることの報告があった。続いて作業環境測定施設として茨城大学機器分析センターを、安全対策実施個所として、教育学部 C 棟 201 マニファクチャリング室の施設見学を実施した。多くの参加者が実際に使用している作業環境測定機器や測定方法などを作業環境測定に従事している技術職員へ直接質問をし、さらに木工作业場であるマニファクチャリング室の施設見学では環境改善前と改善後の写真撮影、改善方法についての質問など多くの意見交流がなされた。

研修会初日の最後にオプションとして茨苑会館にて情報交換会が催され、明日の実技講習を前に多くの参加者との交流がなされ、新



写真-4 作業環境測定施設での見学風景



写真-5 教育学部 C 棟 201 室での見学風景



写真-6 情報交換会での交流風景



写真-7 実技研修会場風景



たな人脈が作られた方も多く非常に有意義な会となった。

平成 26 年 3 月 7 日（金）は理学部 G 棟に研修会場に変え、工学部技術部（筆者）と機器分析センター（塙浩之氏）職員による「局所排気装置メンテナンス実習」を開催した。プログラムにある手順とは少し変更を行い、まず午前中は局所排気装置の構造の説明と湿式スクラバータイプの清掃手順、乾式スクラバーの清掃手順について説明をした後、参加者を 1 班 5 名程度の 6 班に振り分け、1 班ずつ乾式スクラバーで使用されている活性炭カートリッジの交換作業を体験していただいた。参加者の多くの方が局所排気装置のメンテナンスをするのに必要な工具類、局所排気装置の内部構造、作業方法についてメモを取り写真撮影を行っている姿が見受けられた。午後からは建屋屋上に上がり、インバータ式の排風機についての調整方法、現場作業における触診の重要性について説明を行った。続いて研修会場に戻り、1 班 1 台の電動機—排風機を用意して、実際にプーリー間の調整、および適切なベルト調整を体験していただいた。当初、この実習作業にはかなりの時間を要すると想定していたが、時間に余裕がある班が多数見受けられ、もっと専門的なプログラムでも良かったのではないかと反省点が見つかった。今後、実習的な研修会をするときには是非、改善をお願いしたい。最後に工学部技術部総括技術長の武田誠氏より閉会の挨拶として、大環協実務者研修会を通じて大学間の交流、情報交換を密にし、各々の職場でフィードバックしていただければとの挨拶を頂いた。

最後に副部門長として未熟な私を、全力でサポートしていただいた当部門長、ならびに実務者連絡会の皆様に、この場をお借りして、心よりお礼を申し上げたい。



写真-8 局所排気装置構造説明風景



写真-9 中庭での活性炭交換作業風景



写真-10 電動機の調整風景その 1



写真-11 電動機の調整風景その 2

## 大学等環境安全協議会プロジェクト会議参加報告

(2012 年 12 月 14 日 刈谷市産業振興センター)

横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター

鈴木 雄二

### 1. はじめに

大学等環境安全協議会プロジェクト会議（2012 年 12 月 14 日）で「事故情報の収集と活用への展望」のテーマで発表した。発表内容は、横浜国立大学において筆者がこれまで関与した事故情報の収集、原因分析、再発防止など学内の実務及び学外調査等で得られた情報から当プロジェクト用に抜粋した内容であった。本報告では発表後に得られた情報も追加する。

### 2. 事故情報のデータベース

産業災害等の情報の収集や活用については各種の学協会、企業、研究機関で様々な取り組みがなされている。インターネットを通じて公開されている情報も多数あり、下記に例示するのでご参考にしていただきたい。

・ リレーショナル化学災害データベース RISCAD（独立行政法人産業技術総合研究所）

1949 年以降の化学災害情報約 4,200 件を収録。物質安全データ、熱危険性データおよび事故発生プロセスのフロー図などを記載。

<http://riodb.ibase.aist.go.jp/riscad/index.php>

・ 災害事例データベース（独立行政法人 産業技術総合研究所）

1940 年頃より集積した経産省所管の産業の災害事例データベース。 [http://riodb.ibase.aist.go.jp/db019/cgi-bin/DB019\\_top\\_jpn.cgi](http://riodb.ibase.aist.go.jp/db019/cgi-bin/DB019_top_jpn.cgi)

・ 化学物質が関係する主な事故事例について（国立医薬品食品衛生研究所）

毒物劇物の安全対策、化学物質による災害事例、総務省消防庁の統計表(平成 20 年、19 年、18 年)。 <http://www.nihs.go.jp/hse/c-hazard/>

・ 失敗知識データベース（畑村創造工学研究所）

化学物質の事故情報約 330 件を収録。平成 23 年 4 月、畑村創造工学研究所がデータベースを公開。 <http://www.sozogaku.com/fkd/>

・ 製品安全・事故情報（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）

・ 災害事例（中央労働災害防止協会情報センター）

労働災害事例、死亡災害 DB、ヒヤリハット事例、写真で見る災害事例など。

・ 爆発火災データベース（独立行政法人 労働安全衛生総合研究所）

これまで研究用の基礎資料として所内研究員のみが利用。掲載内容を見直し、平成 12 年に一般に向けて公開。17 年間、計 1200 件強。

<http://www.jniosh.go.jp/results/2012/0629/>

### 3. 事故情報の活用や課題

旧・産業安全研究所では、類似災害防止と安全技術向上や災害防止技術を身に着けることなどを目的に、検討やデータベース構築を行い公開している<sup>2)</sup>。関連の報告書では多数の事例を頭にたたきこむより少数の事例に対し徹底した根本原因究明の過程で工学的対策の知識化を図った後に、数多くの災害事例にあたった方が、真の災害防止技術が身につくのではないかという考えも示している<sup>3)</sup>。産業技術総合研究所では事故事例活用のための「RISCAD」リレーショナル化学災害DBを公開している。事故進展フロー図を併記しており視覚的な工夫で理解しやすくするための工夫をしている。データベース運用上の問題点として開発予算とは別に必要となる運用する予算の保証がなく、人件費も含めると赤字で関連のある研究資金による研究成果をデータベースに統合するという実態がある。またデータベースの運用だけでは研究成果にならず、後継者の育成が困難である。

### 4. 事故情報の活用事例

横浜国立大学の大学院教育の一端において、失敗知識DBの構造を活用し、大学での事故例を題材に失敗シナリオをグループ作業で作成するなどの内容で演習を試みた。安全管理体制や事故防止のあり方について各自が考え、説明することの実践と、意見交換で多様な考えを学ぶ機会となった。

### 5. おわりに

化学品の事故を対象とするOECDのワーキンググループでは異なるデータベース間の連携が進みつつある<sup>4)</sup>。各大学が取り組む事故情報についても7大学で情報共有の仕組みが構築されているが、更なる連携拡充の余地があり、今後も検討や改良について継続した取り組みが望まれる。

### 参考資料

- 1) 事故事例情報, 横浜国立大学ウェブサイト, [http://www.anshin.ynu.ac.jp/renkei/info/flat/hazard\\_zikozirei.html](http://www.anshin.ynu.ac.jp/renkei/info/flat/hazard_zikozirei.html)
- 2) 鈴木芳美, 前田豊; 労働災害事例検索データベースSAFEの試行開発について, 産業安全研究所特別研究報告, NIIS-RR-87, pp.69-88, 1987.
- 3) 梅崎重夫, 清水尚憲; 6. 産業機械の労働災害分析, 産業安全研究所特別研究報告, NIIS-SRR-NO.33, pp.53-67, 2005.
- 4) 和田有司; 化学安全の国際動向—OECD化学品事故ワーキンググループの活動—, 安全工学, 安全工学会発行, Vol.51.No.6, pp.402-408, 2012.

## 大学等における巡視の方法とシステムについての調査

澤口亜由美（東北大学、プロジェクト代表）、伊藤康子（九州工業大学）、金澤浩明（茨城大学）、川上貴教（北海道大学）、中村修（九州工業大学）、中山政勝（静岡大学）、藤井邦彦（新潟大学）

### はじめに

管理業務というのは、現場との距離が空いてしまうことが少なくない。安全衛生管理業務も例外ではなく、特に大学等では様々な分野の研究室が混在しており、また、研究室自体の数も多いことから、全ての現場を管理することは容易ではない。そのような状況の中で、現場を訪れ、直接現場責任者と話し、共に安全衛生管理について考える時間を作れるのが巡視である。

しかし、別の業務を抱えながら兼務で実施している大学等や、国立大学法人化から10年が経過し、その間に巡視業務がマンネリ化してしまった大学等もあり、巡視が問題なく実施できている大学等ばかりではない。本プロジェクトは、衛生管理者による巡視にスポットを当て、大学等の研究機関に見合った形の巡視の在り方を再検討し、その成果を各大学等で共有することを目的として実施するものである。

### プロジェクトの進捗状況と今後の課題

平成26年2月に、大学等環境安全協議会団体会員95機関に対しての郵送、および実務者連絡会メーリングリストを利用したメール配信という2つの方法により、衛生管理者による巡視についてのアンケートを実施した。3月31日現在、95機関中、49機関から74の回答を頂いている。

アンケートの質問内容は主に衛生管理者による巡視の実施方法に関わる基本的な事項を主として作成したが、アンケートを実施してみると、各機関により実施されている方法は非常に多様で、アンケートの枠におさまらない例も珍しくなかった。巡視方法については、大学等研究機関同士の情報共有があまり進んでいないテーマであるため、法人化以降、それぞれの機関に適応した形での方法が独自の発展を遂げていった様子が伺える。

今後の展望としては、アンケートの回答を踏まえ、大学等研究機関に適した巡視方法の検討を進める予定である。それぞれの機関で問題とされている事柄だけでなく、身近すぎて見落とされている問題についても検討し、際限のない安全衛生管理者の作業負担を低減化し、巡視業務の効率化のための一助となることを目指す。



## 実務者連絡会における情報の整理と活用促進

山野聖子（山口大学）、牧野育代（東北大学）、藤井邦彦（新潟大学）、川上貴教（北海道大学）、中村修（九州工業大学）

### プロジェクトの目的

大学等環境安全協議会実務者連絡会では、平成 11 年以来、毎年会報を発行している。これらは、廃棄物処理業務の入門書的な内容をはじめとして、特殊廃液の処理方法や化学物質のリスクアセスメントの事例など、多岐にわたる有益かつ独自の情報が蓄積されている。しかし、これらの情報は、大学等環境安全協議会本体のみならず、実務者連絡会内部においてさえ共有されていない。この状況を改善するために過去の資料を集積し、誰もが情報を得て業務や研究に活かすことができる体制を構築することを目的として、本プロジェクトを実施している。

### 進捗状況

会報に掲載された内容を簡単に検索することができるデータベースを構築するために、過去の会報の記事のタグ付け作業を行った。対象となる記事は、研修会および見学会の報告、業務内容に関するもの、調査研究に関するものとした。現在、タグの整理と分類の作業を行っており、2014 年 7 月頃を目処に、データベースを構築する計画である。

### 今後の展望

その後は、Web プログラムを作成と公開に向けて作業を続けていく。データの公開範囲については、現在検討中であるが、タイトル、著者、掲載ページまでは一般公開とし、本文については、パスワード制を導入するなどして、会員限定公開とする予定である。また、Web プログラムの作成と並行して、会報以外の資料についても、タグ付けおよびデータベース化を行い、さらに幅広い情報を共有できるようにしたいと考えている。

さらに、本プロジェクトで作成したプログラムを、会員の方々に長く活用していただけるよう、プログラムの維持管理の体制作りについても検討する予定である。

## 技術賞候補者推薦のお願い

大学等環境安全協議会技術賞候補として適正な方を、自己推薦も含め、世話人または大学等安全協議会事務局に連絡下さいますようお願いいたします。なお、以下の協議会「技術賞内規」及びこれまでの「技術賞受賞者」をご参照下さい。

(締め切り：4月末日)

### ・技術賞受賞者一覧

| 受賞年  | 氏 名   | 所属団体（受賞時）      | 受賞年  | 氏 名   | 所属団体（受賞時）     |
|------|-------|----------------|------|-------|---------------|
| 1989 | 小森 均平 | 名古屋大学          | 2002 | 荒井 智  | 早稲田大学         |
| 1990 | 岩崎 隆昌 | NEC 環境エンジニアリング |      | 荻野 和夫 | 群馬工業高等専門学校    |
|      | 藤元 数尊 | 岡山大学           |      | 田中 雅邦 | 岡山大学          |
| 1991 | 矢坂 裕太 | 大阪大学           | 2003 | 吉崎佐知子 | 金沢大学          |
| 1992 | 井勝 久喜 | 信州大学           |      | 岩原 正一 | 筑波大学          |
| 1993 | 柏木 保人 | 筑波大学           |      | 山田 剛志 | NEC アメニプランテクス |
| 1994 | 真島 敏行 | 京都大学           | 2004 | 伊藤 通子 | 富山工業高等専門学校    |
| 1995 | 奥墨 勇  | 埼玉大学           |      | 佐藤 延子 | 東北大学          |
|      | 小山 健夫 | 早稲田大学          |      | 重里 豊子 | 神戸大学          |
|      | 前田 芳巳 | 琉球大学           |      | 西 利次  | アサヒブリテック      |
| 1996 | 渡邊 広幸 | NEC 環境エンジニアリング | 2005 | 小沢 宗良 | 島根大学          |
|      | 梅本 健志 | 鳥取大学           |      | 白川 久栄 | 首都大学東京        |
|      | 亀田 紀夫 | 北海道大学          |      | 川口 聡  | (有) 環境産業      |
|      | 小泉 善一 | 玉川大学           |      | 片山 能祐 | NEC ファシリティーズ  |
|      | 首藤 征男 | 熊本大学           | 2006 | 松原 滋  | 野村興産          |
|      | 藪塚 勝利 | 群馬大学           |      | 吉識 肇  | 理化学研究所        |
| 1997 | 市川 良夫 | 姫路工業大学         | 2007 | 鮫島 隆行 | 千葉大学          |
|      | 大泉 学  | 新潟大学           |      | 千葉 憲一 | 八戸工業高等専門学校    |
|      | 管野 幸治 | 山形大学           |      | 松浪 有高 | 名古屋大学         |
|      | 浜本 健児 | 関西医科大学         |      | 澤村 幸成 | サンレー冷熱        |
|      | 三品 佳子 | 宮城教育大学         | 2008 | 榊原 洋子 | 愛知教育大学        |
| 1998 | 城 義信  | NEC 環境エンジニアリング |      | 坂下 英樹 | 広島大学          |
|      | 鈴木 一成 | 浜松医科大学         |      | 秋吉 延崇 | 岡山大学          |
|      | 長井 文夫 | 筑波大学           |      | 下田 勉  | NEC ファシリティーズ  |
|      | 宮下 雅文 | 兵庫医科大学         | 2009 | 川上 貴教 | 富山大学          |
| 1999 | 平田まき子 | 加計学園岡山理科大学     |      | 吉村 徳夫 | 神戸大学          |
|      | 武藤 一  | 秋田大学           | 2010 | 布施 泰朗 | 京都工芸繊維大学      |
|      | 山岸 俊秀 | 八戸工業高等専門学校     | 2011 | 伊藤 豊  | NEC ファシリティーズ  |
| 2000 | 図師比呂彦 | 香川大学           |      | 長谷川照晃 | 茨城大学          |
|      | 平 雅文  | 高エネルギー加速器研究機構  | 2012 | 中村 修  | 東北大学          |
|      | 本田 由治 | 京都大学           |      | 神田 浩治 | 野村興産          |
| 2001 | 木村 利宗 | 同和工業           | 2013 | 藤村 久  | 静岡大学          |
|      | 田平 泰広 | 長崎大学           |      | 片岡 裕一 | 福井工業高等専門学校    |
|      | 長谷川紀子 | 東京工業大学         |      |       |               |
|      | 若林 和夫 | 東京都立大学         |      |       |               |

・技術賞内規

1. 本協議会に技術賞を設け、多年にわたり大学等における環境安全監理、教育、研究、医療等の諸活動に伴って使用される化学物質等の管理、及びその結果発生する有害な廃棄物の処理に携わり、または環境安全監理に欠くべからざる機械、器具ならびに試薬などの製造及びサービスの実務に従事して、廃棄物処理技術の向上及び環境安全施設等の管理運営に功績のあった者にこれを贈呈する。(中略)
2. 前条によって推薦される者は、多年にわたり第1条の実務に従事し、本協議会個人会員のうちの技術系職員である者、又は団体会員及び賛助会員に所属する技術系職員である者とする。

**第16回実務者連絡会の予定(案)について**

世話人 荻野 和夫、榊原 洋子

・第32回協議会研修会第16回実務者連絡会及び総会

日時：平成26年7月24日(木)、25日(金)

場所：広島大学

内容：実務者連絡会企画プログラム

技術報告、事例報告

グループディスカッション等

第16回実務者連絡会総会

事業報告、事業計画等

・第30回技術分科会実務者連絡会企画プログラム

日時：平成26年10月23、24日(予定)

場所：大阪大学

内容：技術報告、事例報告

特に廃棄物の現状等

実務者プロジェクト報告等

※ 実務者の方に報告を募集し、講演していただく。

実務者の皆様からの技術報告・事例報告を募集しておりますので、世話人まで、お申し込み下さい。また、グループディスカッションや講演のテーマなど、のご提案もお寄せください。

## 実務者連絡会ホームページ、SNS サービスについて

実務者連絡会のホームページを立ち上げました。実務者を対象とした情報を順次掲載していきたいと思います。大環協 HP からリンクが張っております。

実務者連絡会 HP <http://www.daikankyo-eng.org/public/>

実務者連絡会メンバーの情報交換及び相互理解を深めるため、SNS サービス（Social Networking Service）を運用しています。このサービスは、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型の会員制のサービスです。会員間の相互理解を深め、テーマを絞った掲示板を作成し、情報交換を行うことが出来ます。

この SNS へ参加するには、管理者から招待状を受け取らなければなりません。参加に当たっては以下の条件があります。

1. 実名で登録する。（ハンドル名不可）
2. 参加者は実務者連絡会メンバーに限る。
3. SNS 内で知り得た情報を、情報提供者の了承無く外部に漏らさない。
4. 他参加者に対して著しく不快感を与える行為を行わない。

参加は無料です。参加ご希望の方は、世話人までご連絡ください。

## 実務者連絡会名簿登録、追加について

実務者連絡会名簿への登録をお願いしています。まだ、登録されていない方、新規に登録希望の方は、電子メールでお申込みください。詳しくは、実務者連絡会 HP をご覧ください。

<http://www.daikankyo-eng.org/public/register/list.html>

## [実務者連絡会 申し合わせ]

---

平成 11 年 1 月制定  
平成 15 年 11 月改定  
平成 20 年 11 月改定  
平成 23 年 6 月改定  
平成 25 年 7 月改定

1. 大学等環境安全協議会実務者連絡会(以下「実務者連絡会」という。)と称する。
2. 実務者連絡会の事務局を代表世話人の自宅におく。
3. この会は、大学等において大学等環境安全協議会(以下「大環協」という。)が関係する業務に技術的または事務的に直接携わる者を中心とした職員等(以下「実務者」という。)が、その連携を密にし、会員相互の資質の向上をはかることを目的とする。
4. 会員は、大環協の団体会員及び賛助会員に所属する者で、自らが実務者であると認識し、入会を希望した者とする。
5. 実務者連絡会は大環協内に設置し、適宜大環協に援助を仰ぐ。
6. 大環協担当理事は、大環協理事会によって決定され、世話人を兼ねる。
7. 実務者連絡会の代表は、大環協担当理事の互選によって決定し、会務を総括する。
8. 実務者連絡会内に部門を置き、会員は1以上の部門に所属する。
9. 各部門には部門長・副部門長を置き、部門活動については研修会等で開示に努める。
10. 当面、廃棄物部門と安全衛生部門の2部門を発足させる。部門の改廃は実務者連絡会総会で決定する。ただし、部門の細分化についてはこの限りではない。
11. 大環協担当理事ほか、世話人若干名、部門長、監事の役員を置く。部門長及び監事については、大環協担当理事、世話人のもと、会員の互選により決定し、副部門長は部門長の指名による。
12. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
13. 長年にわたり大学等において廃棄物処理等環境安全の実務に従事し、定年退職された方若しくは一年以内に定年退職見込みの方で、かつ、役員等により大学等環境安全協議会実務者連絡会に貢献があった者に実務者連絡会功労賞を贈呈する。
14. 実務者連絡会を毎年開催し、会報を発行する。
15. 経費は、大環協で決められた範囲で賄う。
16. 決算は、監事の監査を経て、実務者連絡会に報告する。
17. 会の活動内容等は、大環協に報告する。

平成 25 年度実務者連絡会役員

| 役職名        |      | 氏名    | 大学等名          |
|------------|------|-------|---------------|
| 世話人(大環協理事) |      | 荻野 和夫 | 群馬工業高等専門学校    |
| 世話人(大環協理事) |      | 榑原 洋子 | 愛知教育大学        |
| 世話人(大環協監事) |      | 平 雅文  | 高エネルギー加速器研究機構 |
| 世話人        |      | 大泉 学  | 新潟大学          |
| 世話人        |      | 田平 泰広 | 長崎大学          |
| 監 事        |      | 前田 芳已 | 琉球大学          |
| 廃棄物処理部門    | 部門長  | 進藤 拓  | 東北大学          |
|            | 副部門長 | 片岡 裕一 | 福井工業高等専門学校    |
| 労働安全衛生部門   | 部門長  | 中山 政勝 | 静岡大学          |
|            | 副部門長 | 金澤 浩明 | 茨城大学          |

平成 26 年度実務者連絡会役員

| 役職名        |      | 氏名    | 大学等名          |
|------------|------|-------|---------------|
| 世話人(大環協理事) |      | 荻野 和夫 | 群馬工業高等専門学校    |
| 世話人(大環協理事) |      | 榑原 洋子 | 愛知教育大学        |
| 世話人(大環協監事) |      | 平 雅文  | 高エネルギー加速器研究機構 |
| 世話人        |      | 大泉 学  | 新潟大学          |
| 世話人        |      | 田平 泰広 | 長崎大学          |
| 監 事        |      | 前田 芳已 | 琉球大学          |
| 廃棄物処理部門    | 部門長☆ |       |               |
|            | 副部門長 | 片岡 裕一 | 福井工業高等専門学校    |
| 労働安全衛生部門   | 部門長  | 中山 政勝 | 静岡大学          |
|            | 副部門長 | 金澤 浩明 | 茨城大学          |

☆ 平成 26 年 7 月開催の総会で決定予定